

認知症（Dementia）その5

市川治療室 NO.363.2018.10

認知症発症の原因が「病気」と（か）「高齢」ということは、誰もがいつかは認知症を発症するということになります。認知症は誰にも起こりうる脳の病気です。

認知症についての正しい知識をもち、認知症の人や家族を支える手立てを知り「尊厳ある暮らし」「安心して暮らせる街」をみんなでつくっていくことを目指して認知症サポーター養成講座が日本全国で開催されています。

今年の3月、山口県岩国市で「介護予防運動指導員スキルアップ研修会」と、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。以下は岩国市で配布されていたパンフレットの抜粋です。

認知症かどうかの早期発見ポイント

- ・ 同じことを言ったり聞いたりする。物の名前が出てこなくなった。
- ・ 以前はあった関心・興味が失われた。置き忘れ、しまい忘れが目立った。
- ・ 日課をしなくなった。だらしなく、表情が乏しくなった。
- ・ 時間、場所の感覚が不明確になった。財布を盗まれたと言う。
- ・ 計算の間違いが多くなった。些細なことで怒りっぽくなった。
- ・ 蛇口やガス栓の閉め忘れが目立った。慣れているところで道に迷った。
- ・ 服装や食事への関心が薄くなる。ことば数が少なくなった。
- ・ 周りへの気遣いがなくなり頑固になった。

認知症進行の程度によりますが、認知症の方の約50%は、自宅で日常生活を過ごしていると報告されています。

認知症かな？と思われる人を見分けるポイント

- ・ 季節外れの服装をしている。バス停などに長時間座り続けている。
- ・ 信号を無視して歩こうとする。囁き囁きしながら同じ所を歩いている。
- ・ わき目もふらずに一目散に歩いている。初対面なのに人懐こく話しかけてくる。
- ・ 険しい表情やガッとして表情をしている。落ち着かなく歩き回る。
- ・ 使える言葉が少ない。

増々増え続ける認知症の人に対応する三つの心得

- 1・驚かせない。2・急がせない。3・自尊心を傷つけない。

脳のダメージが直接的に認知症症状の程度に影響しているとは言い切れず、身近な人との関係性によって本人が追い詰められた結果として、認知症症状が現れると言われています（東京都健康長寿医療センター研究所・伊東美緒）

…続く